

亀ヶ崎小だより

令和6年12月24日(火)

第11号
酒田市立亀ヶ崎小学校

児童会スローガン
チーム かめがさき
TEAM 亀ヶ崎
(T)ていねいに (E)えがみ
(A)あいさつ (M)みんなのために

志高く、夢(目標)に向かって挑戦し続ける亀ヶ崎の子ども

12月の校長講話から 読み聞かせ「しあわせのバケツ」



世界中のどんな人も、心に「しあわせのバケツ」を持っているというお話です。このバケツは人が喜ぶことをすると満たされ、嫌がることをすると空になってしまいます。互いを思いやり、親切にすれば、みんなが幸せになれるというのです。

「しあわせのバケツ」は、どこにでもありそうなバケツです。でも、このバケツは目に見えません。みんなの心の中にあるバケツです。

「しあわせのバケツ」がいっぱいになっていると、その人はとても幸せな気持ちになります。逆に空っぽだと悲しくなったり、寂しくなったりします。

幸せであるためには誰もがバケツをいっぱいになりたいと思うはずですが、目に見えないし、さわることができない「しあわせのバケツ」をいっぱいにするにはコツがあります。

「しあわせのバケツ」は、「誰かに、好きな気持ちを伝えたり、親切にしてあげたり、微笑みかけたりしたとき」に中がいっぱいになるバケツです。

「しあわせのバケツ」は一度いっぱいになれば安心というわけではありません。あることをしてしまうと、バケツの中身が空っぽになってしまいます。それは、「誰かをイヤな気持ちにさせたり、バカにしたり、意地悪なことをしたり、悪口を言ったり、無視すること」。誰かを傷つけるような相手のバケツを空っぽにする言葉や行動は、自分のバケツも空っぽにしてしまいます。

相手のためを思った行動をすることでしか、相手と自分のバケツをいっぱいにする事ができない。とても不思議なバケツです。

酒田市大雨災害に義援金を届けました



6年生が酒田市の大雨被害に対して募金活動を行いました。亀ヶ崎コミセンまつり、港南コミセンまつりの際に6年生児童が募金箱を持って呼びかけたところ、たくさんの善意が集まり、その募金を酒田市に届けに行ってきました。

「おたがいさま」、「おかげさま」の気持ちを形にする活動は尊いと感じます。

